

競技運営上の細則

◎ 競技進行上の内規

- (1) 本大会特別ルールにより試合は7回戦とし、3回以降15点、5回以降7点差をもってコールドゲームを宣する。
 - ① 決勝戦についても競技進行上の内規(1)を適用する。
- (2) 大会特別規則
 - ① 試合回数は7回とし、試合時間は1時間30分とする。
 - ② 試合時間が1時間30分を経過した場合は、新しいイニングに入らない。ただし、リードしているチーム側が明らかに遅延行為を行っているとは本部が判断した場合、また、何かの理由でゲームが遅延した場合その時間は含まない。5回以降で勝敗が決した場合その時点で試合終了とする。同点の場合は抽選とする。
 - ③ 上記時間内において、7回終了して同点であれば、次の「**タイブレイク方式**」を適用する。

【タイブレイク方式】
継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁の走者は前の打者として、無死1、2塁の状態にして行い、得点の多いチームを勝ちとする。

 - ④ **タイブレイク方式は1イニングとし、なお、同点の場合は抽選とする。**
- (3) 投手の障害を予防するために、1試合で投手の投球数を70球までとする。但し、70球を超えたその回までの続投は認める。また、同じ試合での投手・捕手の兼任は認めない。なお、一度降板した投手の投球数が、70球以下であっても再登板は認めない。次回以降の投手の準備は必ずしておくこと。次回以降の投手の準備は必ずして置くこと。
- (4) グランドルールで決められた以外は、公認野球規則を適用する。
- (5) 降雨等によるコールドゲームは5回終了で成立

◎ 競技運営に関する事項

- (1) 着いたら本部にチームの到着を知らせ、メンバー交換用紙の控えを含め提出をする。
 - ① 何らかの都合で参加申込用紙に記入されているコーチが不在になる場合、記入されていないコーチで、研修会参加証明書を所持している者は、大会本部(以下本部と云う)に申告提示し本部の許可を得てベンチに入ることを許可する。
 - ② チーム代表者(責任者)で研修会参加証明書を所持している者のベンチ入りを認める。但し参加申込書に記入されている者に限る。

平成29年度以降ライセンス制を施行してからは、ベンチ入り指導者は参加証明書を所持している者以外は認めない。
 - ③ 研修会参加証明書の貸与は絶対に認めない。それが判明した場合は、**指導者**を地区予選からの出場を部会長・副部会長協議の上、3年間出場停止のペナルティーを課することがある。
- (2) ベンチ入りは抽選番号の若番を1塁側とする。
- (3) 場内でのフリーバッティング練習は認めない。
- (4) シートロックは5分以内に終了すること。ただし前の試合時間経過の関係で、行わない場合もある。
- (5)
 - ① 組合せ表の時間はあくまで目安であって、試合開始時間が早まる場合もある。
 - ② 試合開始予定時刻前でも、前の試合終了20分後に次の試合を開始する。それまでにチームが到着していない場合棄権とみなす。但し諸事情で遅れていて、本部がそれを認めた場合例外とする。
 - ③ 次の試合を行うチームは、前の試合**3回終了時**に、指導者(監督・コーチで研修会参加証明書所持の者)とキャプテン同行の上、本部へ来て攻守を決定する。

なお、試合が早く進行している場合は、放送で知らせるので、チーム関係者は常にスタンドで試合進行状況を把握して進行状況を指導者に連絡しておく。

- (6) ブルペンでのピッチング練習は、本部で攻守を決めた後、先発バッテリーのみとする。ただし、試合を行なっているチームの投球練習を妨げてはならない。また指導者及び他の者の入場は認めない。
3回終了時に対戦相手が来ていない場合、本部が認めてピッチング練習を許可する場合がある。
- (7) 試合中ベンチに入れる人員は、代表責任者（研修会参加証明書所持）監督・コーチ2名スコアラー、選手20名25名以内とする。（給水、その他の人のベンチ入りは認めない。但し急患や気温の上昇等の処置の場合は例外とする。）
- (8) 背番号は監督30番・コーチ29番・28番・選手は0番～99番まで。
- (9) 内野手間の転送球（ボール廻し）は、初回のみとする。
- (10) 捕手は必ずマスク、レガース、プロテクター、ヘルメット、ファールカップを着用のこと。
- (11) 打者・走者・コーチャー・次打者はヘルメットを着用のこと。
- (12) 選手交替の際は必ず主審に申し出ること。特に2名以上の交替には注意すること。
- (13) 次打者は自席側とし、相手投手がマウンドを踏んだら素振りをしてはならない。打席に入る際不用なバットはグラウンドに置かない。
- (14) 自席側のファールボールは該当チームで拾い球審に届ける。
- (15) 試合球の交換は審判員が認めた場合に限る。
- (16) 抗議権がある者は監督と該当プレイヤーのみとする。
- (17) 準備投球は、初回及び交替時の時は7球以内、次回からは3球以内とする。
- (18) 投手が捕手のサインを見るときは、必ず投手板について見ること。
- (19) 投手が捕手から返球を受ける際、3～4歩前に進んで取るクセのある選手がいるので、試合時間に制限があり試合が沈滞すると見なされる場合、球審から注意されるので、予め注意しておく。
- (20) あまりインターバルが長く、無用な牽制球の度が過ぎると、ペナルティーを科することがある。
- (21) 打者は、投手が投球位置にいる、居ないに関係なく、速やかにバッターボックスに入ること。
- (22) 次打者は、速やかに次打者席に入り、低い姿勢でまつこと。投手も必ず実行すること。
- (23) 思うままにバッターボックスを出入りすることは許されない。
- ①みだりにバッターボックスを外した場合、球審はタイムをかけずに、投球に対して、正規に「ストライク」「ボール」の判定を下すことがある。
 - ②バッターボックス内でサインをみること。（打者が正規の打撃姿勢を取らないときは、投手は打者に投球してはならない）
 - ③打者はバッターボックスに入る時、ホームベース（捕手の前）を横切らないこと。
- (24) 同チームの各選手（監督・コーチを含む）の服装は次の通りのものでなければならない。
- ①帽子、ユニフォーム、ストッキングは全員同一のもの。
 - ②アンダーシャツの見える部分は、全員同じ色のもの。
 - ③スパイクは同一のものでなくとも良い。
 - ④ユニフォームの選手名が入れられるのは、同姓の者のみである。
- (25) 自チームの他の選手と異なるユニフォームを着用した選手は、試合に出場出来ない。
- (26) ユニフォームのパンツがロングタイプでも、ストッキングは見えるように着用する。また、パンツのポケットからタオル等出さないようにする。
- (27) 投手のアンダーシャツの両袖は、長さを均等にしなければならない。
- (28) グラウンドには、競技の出来る正規の服装でなければ出ることは出来ない。但し、第1試合の場合、外野での練習に限り、同一のアップ用服装を認める。
- (29) 攻守交代時、攻撃側先頭打者とベースコーチはミーティングに参加せず、速やかに所定の位置につく。
- (30) 次打者以外は、みだりにベンチ前に出ないこと。
- (31) 球場の内外を問わず、マナーに注意し、立派な態度で試合に臨む。

- (32) グランド整備については、第一試合のチームは試合の始まりと終わり、次からの試合チームは試合が終わって、次の試合のシートロックが終わった後に、最終試合のチームはベンチの清掃とグラウンド整備を教育的立場からもどのチームも子供達と一緒に速やかに行ってください。
- (33) 試合中及び攻守交代の時に、コーチはグラウンド内に出てはならない。

◎ その他の条件

- (1) 群馬県スポーツ少年団軟式野球専門部会では、平成26年度から指導者研修事業を行い、研修会参加を義務化しております。研修会参加証明書を地区大会から所持してベンチ入りして下さい。
- (2) 攻守を決める際、主将と同行する指導者は、研修会参加証明書を所持している者とし、大会本部の認証をえる。
- (3) 平成26年度～28年度の3年をかけて指導者ライセンスの取得と、リフレッシュポイント制度を29年度より施行しています。
- (4) ライセンスを取得していない指導者のベンチ入りは地区大会より認めない。但し、急遽監督が交代になり指導者ライセンスのポイント不足の生じたチームは、2019年度上申書提出した監督は優遇処置として認める。なお、当該年度に必ず研修会に参加しポイントを取得する事を確約する。不明な点がありましたら、支部代表責任者にお尋ね下さい。

※ 雨天の間合せ

- (1) 大会当日に各チームが直接連絡を取る。
- (2) 問い合わせ時間
午前5時～7時

◎ 連絡先

群馬県スポーツ少年団軟式野球専門部会 和田久雄（桐生支部代表）
携 帯 090-2565-3210